

## ヨハネの手紙第一4章10節 「まず神が愛し」

### 1A 神から来る愛

#### 1B 愛なる神

#### 2B 御子にある愛

#### 3B 御霊の示し

### 2A 神を愛する私たち

#### 1B 全うされる愛

#### 2B 全き心

### 3A 兄弟への愛

#### 1B 神から生まれた者

#### 2B 目に見える愛

## 本文

ヨハネの第一の手紙 4 章を開いてください。午後に、4 章 7 節から 21 節までを、一節ずつ見ていきますが、今朝は 10 節に注目します。「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」4 章後半は、愛することについての教えです。

キリスト教と言えば、教会の中でも、また一般においても知られているのは、「愛」ですね。日本においては、結婚式、ブライダルを教会で行うことがいつしか主流になり、愛という印象が強いですね。コリント第一 13 章の、愛の章が読まれます。また、「**自分の敵を愛しなさい**」という言葉や、「**あなたの右の頬を打つ者は左の頬も向けなさい。**」という言葉が有名ですね。ある知り合いの牧師は、牧師家庭で生まれ育ちましたが、小学生の時、同級生からいきなり、びんたされたそうです。右の頬を打っても、左の頬を打ちなさいと言う言葉だけは、おそらく親か誰かから吹き込まれたからだそうです。彼は、平手打ちした相手にやりかえしたそうですが！（笑）

では、キリスト者になり、愛しなさいという命令をいざ、行おうとすると、どうすればよいのか分からないことが多いのではないのでしょうか？最も大事な戒めであることは知っていても、それを実践するのは、どうすることなのでしょう？

ヨハネは、ここ 4 章で、一つの流れを示してくれています。それはあたかも、新鮮な水の川が下流に流れていき、海にたどりつくような流れであります。源流は、神です。神こそが愛であり、愛は神から出てくるものです。そして、その愛が、ご自身にすべてを明け渡した人に満たされます。そして、神の愛に満たされた人が、周りの人にその愛を分かち合っていくという順番です。

そこで、自分がいかに神を愛しているのかに集中しつづけると、源が神なのに、自分の中からふりしぼって、愛を出そうとしてしまい、苦しみもだえます。また、自分が自分の愛ではなく、神の愛に満たされるからこそ、隣人を愛する命令を守れるのに、自分の愛を、そんなの無私の愛ではないのに、他人に押し付けてしまうことが、しばしば起こります。東日本大震災後の、復興支援活動で、ある人が、一般の救援活動に参加したことを話しました。話を聞いていると、どうも、自分探しのようになっていたように聞こえました。

### 1A 神から来る愛

しかし、本文を見てください。「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し**」となっています。私たちが神を愛するのが先ではなく、まず、神が私たちが愛したのです。この順番が、最も大切であります。

### 1B 愛なる神

4章8節をご覧ください。「**愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。**」とあります。愛と云ったら、神なのだよ、ということです。神が愛ではないことを行われません。金太郎飴のどこを取っても、どこまでも金太郎が出てくるように、神のどこをとっても、そこには愛があります。神の本質が愛であり、愛から離れて神は何も行われていません。

神々と呼ばれているもの、異教の神は、機嫌が移り変わるものです。ある時は調子が良くて、人々に良くするかもしれませんが、癩癪を犯して、ある時に怒り散らすような姿が、神々の神話にはよく出てきます。新約聖書の時代は、ギリシアの神々が多く信じられていましたが、その全てが、人間と同じ、いや人間以上に強欲に満ちています。日本では、「地震、雷、火事、親父」なんて言う言葉があるように、いつ親父のように怒りちらすか分からないから、宥めないといけない神々です。

そのような見方で、私たちは、聖書を読む時に、神に投影させて読んでしまいがちです。例えば、アダムが罪を犯して、アダムとエバがいちじくの木で腰の覆いを作りました。園の中を主が歩き回られていましたが、彼らは御顔を避けて、身を隠していました。「**神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。『あなたはどこにいるのか。』**」(創世 3:9)「この箇所を、「おい、アダムとエバ！お前たち、どこに隠れているんだ！」と、怒って、こぶしを振り上げている神に見えますか？それとも、涙を流して、「あなたはどこにいるのか？」と嘆いて、呼びかけている声に聞こえますか？私たちは、しばしば、「神は怖い」という時に、実は自分の心の状態を神ご自身に投影させているのです。

そうではなく、神は愛なのです。神は、ご自分の正しい御怒りを現しておられる時も、愛であられます。だから、その者が悔い改めさえすれば、いつでもすべての罪を赦される方です。エゼキエルの預言では、神は悪人の死を喜ばないとあります。

そして、4章7節に、「愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。」とあります。そうはいつでも、キリスト者でない人も愛のある人は、いくらでもいるではないか？と思われるでしょう。そこで気をつけなければいけないのは、「愛」という言葉のギリシア語は、アガペーだということです。ギリシア語ほど、語彙の豊かな言語はないと言われていました。愛でも、少なくとも四つの言葉があるとされています。その主な三つは、肉体の愛であるエロス。精神の愛であるフィレオ。そして霊的な愛であるアガペーです。ここでは、アガペーなのです。

アガペーとは、犠牲の伴う愛、無私の愛です。与える愛です。見返りを求めない愛です。エロスの愛が、最も利己的です。自分の性欲を満たしたいから、もらう愛です。売春婦は、多くの男と通じていますが、最も男を憎んでいる人々と言われる。愛されることはないからです。そして、フィレオは、「大好き」という言葉がよいでしょう。相愛です。何か一つの興味や価値観があって、その中で相互に行き来する愛です。

そして、ストルゲーという愛もあります。これは家族愛です。親が子に抱いている愛ですね。どうして、ここまで子に対して愛せるのか？しれません。しかし、私は、しばしばみなさんに尋ねますね？息子や娘のために死ぬことはできるかもしれません。けれども、息子や娘を殺した殺人犯のために、代わりに死ぬことはできますか？相手を殺したいと思っても、代わりに死ぬなんていう犠牲はもつてのほかです。

しかし、それをまさに神がしてくださったということ、私たちは知っています。「ロマ 5:7-8 正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」私たち、神に敵対している罪人のために、ご自身の独り子をお与えになりました。ここに愛があるといます。

その愛を知っている人が、神を知っているということです。そうすると、キリストを信じる者にしか、愛が分からないということです。人間的な意味での愛であれば、いくらでも愛のある人たちはいます。けれども、ここまでの無私の愛、犠牲の愛は、神にしかありません。

## 2B 御子にある愛

そして、この愛を、今、読んだとおり、神は御子にあって示してくださいました。4章9節には、私たちにいのちを与えられたことによって、愛してくださいましたとあります。「4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。」イエスは、ご自分の生涯で、いのちを削る働きをされました。ご自身のいのちを献げて、それで人々が生かされました。

そして、その生涯の最後が、十字架における死です。その死によって、神の正しい御怒りが満たされました。本文 10 節ですね。「**私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」宥めとは、神の正しい怒りが満たされることです。裁判官が、正しい判決を、凶悪犯に下す時、正しさが満たされたのですが、そういった意味で使われます。旧約の時代には、幕屋の至聖所にある、宥めの蓋のことを指しています。大祭司が、イスラエルのために流された血をふりかけることによって、罪をすべて清めていただきます。

私が罪を犯して、その罪を私に帰すのではなく、ご自分の御子に帰されたのです。そのようにして、私が生きるようにしてくださいました。恐ろしいほどまでの愛です。犠牲の愛です。

### 3B 御霊の示し

そして、このような証言、父なる神が御子にあって示された愛を、私たちはどのようにして知ることができるでしょうか？それが、御霊の働きです。「ロマ 5:5-6 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。」聖霊が、神の愛を私たちの心に注ぐのです。それで、不敬虔な者のために、キリストが死なれるところにある、神の愛を知ることができるのです。聖霊の働きがなければ、人の世界には一切ない、次元を超えた神の愛を知ることはないのです。

### 2A 神を愛する私たち

このようにして、神が愛だということが分かって、初めて私たちは、神を愛することができます。4 章 19 節に、「**私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**」神に愛されていることを知って、応答として、神を愛します。

### 1B 全うされる愛

4 章 16-17 節にこう書いてあります。「16b 神は愛です。愛のうちにとどまる人は神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまっておられます。17a こうして、愛が私たちにおいて全うされました。」愛が全うされるのです。これは、愛にあって十分に成熟するという意味合いです。私たちは、神が愛であり、その愛の神にとどまっている、共にいるならば、自分を捨てて神を愛さざるをえません。神を愛することがなければ、神の愛があっても、そこにとどまることができません。自分を愛してくれる人がいる時、その人にその恩を返すことができれば、その時に愛が全うされます。

神は、自分が反抗していても愛しておられますし、反抗している者に愛を示すところに、神の愛の真骨頂があります。けれども、その愛に触れられて、心が変わられ、自分を捨てて、神を愛する時に、その愛が全うされます。自分をありのままに受け入れて、愛してくださっている方に対して、そのまま自分が心に満ちていたら、その愛を知ることはできません。神の無私の愛に触れたら、

自分も自分を忘れて、神を愛するところに、愛が満ちるのです。

不道德な女が、イエスの足のところで涙を流して、髪でぬぐい、口づけして、香油を塗りました。このことについて、イエスが言われたのが、これです。「ルカ 7:47 ですから、わたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」彼女が多く愛しているのを見て、彼女が多く赦されているのがわかる、ということです。愛しているからこそ、赦されていることを実感できています。

## 2B 全き心

そこで、イエスは、律法のまとめとして、全き心で主なる神を愛することを教えました。申命記 6 章 5 節の言葉です、「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。」心も、いのちも、力も、思いも、主なる神を愛するのです。

ペテロに対して、主が言われたことばがとても大切です。「ヨハ 21:15 あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ここは、「この人たち」とも訳せるし、「これらを愛する以上に」とも訳せます。153 匹の魚がとれたのですが、これら以上に愛しますか？と、イエスは尋ねられたかもしれません。ペテロは、「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたをご存知です。」これはギリシア語を見ないと、実は話しかかみあっていないのが分かります。イエスが聞かれていた愛は、アガペーの愛です。けれどもペテロが答えたのは、フィレオの愛です。だから、イエスは、アガペーしていますか？と尋ねられたのに対して、単にイエスを大好きだと答えているにしか過ぎないのです。自分の大好きな魚釣りよりも、わたしを愛しますか？という問い、つまり、アガペーの愛で愛していますか？ということであります。

## 3A 兄弟への愛

そこからようやく、兄弟への愛、あるいは隣人への愛があるんですね。4 章 11 節に、「神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。」とあります。神が愛し、それで自分が神を愛していて、その愛にとどまっているから、兄弟を愛します。

## 1B 神から生まれた者

今の時代は、個人主義が発達しています。信仰や宗教というと、自分自身が心の安寧のためにあるのだという、きわめて私的な、個人的なものとして取り扱われます。しかし、キリスト者の信仰はそうではありません。信じることによって、神に生まれています。ですから、同じようにキリストを信じているなら、互いに兄弟なのです。5 章 1 節に、「イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はみな、その方から生まれた者も愛します。」とあります。

兄弟ということは、切っても切れない絆があります。自分は同じキリストの血で、互いにつながっています。ですから、相手を傷つけるのは、自分自身を傷つけることになります。そのつながりがあるので、自分に気に食わないことがあったとしても、それでも、相手を敬い、憎むことができないのです。知識を目的にしていた偽預言者たち、反キリストは、そのつながりがない、つまり神によって生まれていないので、平気で仲間から離れ、相手を憎むことができました。けれども、兄弟であれば、決してそんなことはできないのです。

## 2B 目に見える愛

それから、目に見える兄弟を愛せなかったら、目に見えない神はなおさらのこと愛せない、ということがあります。「4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。」

よく考えてみてください、神を愛するという事は、言うのは簡単です。そして目に見えない神なので、いかようにでも偽れます。けれども、目に見える兄弟であれば、目に見えるかたちで、真実と行いをもって愛していなければ、本当に愛しているかどうか分からないのです。ですから、神を愛しているということ、兄弟を愛しているということ、表していくのです。

このようにして、私たちに、ヨハネは愛を教えています。神の愛から始まります。神こそが、愛する者を生み出されます。そして、神を愛して、兄弟を愛します。この順番さえ間違えていなければ、私たちキリスト者は、愛することにおいて迷うことはありません。